

部分払における出来高取扱方法（案） 新旧対応表

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>Ⅲ 出来高の取扱方法</p> <p>1 (略)</p> <p>2 施工の途中段階で出来高に計上する場合 施工の途中段階での取扱については、次のように取扱うことが考えられる。</p> <div data-bbox="152 639 1102 879" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>施工の途中段階では、出来高を、実際の出来形部分を超過しない範囲の概算数量で算出する工夫が考えられる。</p> <p>なお、ここでいう「概算数量で算出する」とは、数量の算定等が容易となるよう、適宜、出来高を施工済部分より少なく計上するとの意であり、出来高の計算を概算するという事ではない。</p> </div> <p>どの部分でも、施工完了後に全体を出来高計上することから、施工の途中段階においては、請負者が施工済の部分全てを部分払請求しなくとも問題とはならない。</p> <p>即ち、部分払対象として出来高計上する範囲は、実際の出来高（履行報告の出来高）を下回っていても良い。</p> <p>例えば、多くの交差点幅があり平面形状が複雑な舗装工事において、施工の途中段階では施工済部分のうち幅を除く部分のみを出来高計上する等の工夫が考えられる。</p> <p>また、構造物など、複数の工種で構成される部分の施工の途中段階においては、コンクリート、型枠、鉄筋など出来高確認が容易なもののみを出来高とするなどの工夫が考えられる。</p> <p>さらに、工事全体についても、施工の途中段階においては、出来高が大きい部分や</p> | <p>Ⅲ 出来高の取扱方法</p> <p>1 (略)</p> <p>2 施工の途中段階で出来高に計上する場合 施工の途中段階での取扱については、次のように取扱うことが考えられる。</p> <div data-bbox="1135 639 2085 879" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>施工の途中段階では、出来高を、実際の出来形部分を超過しない範囲の概算数量で算出する工夫が考えられる。</p> <p>なお、ここでいう「概算数量で算出する」とは、数量の算定等が容易となるよう、適宜、出来高を施工済部分より少なく計上するとの意であり、出来高の計算を概算するという事ではない。</p> </div> <p>どの部分でも、施工完了後に全体を出来高計上することから、施工の途中段階においては、請負者が施工済の部分全てを部分払請求しなくとも問題とはならない。</p> <p>即ち、部分払対象として出来高計上する範囲は、実際の出来高（履行報告の出来高）を下回っていても良い。</p> <p>例えば、多くの交差点幅があり平面形状が複雑な舗装工事において、施工の途中段階では施工済部分のうち幅を除く部分のみを出来高計上する等の工夫が考えられる。</p> <p>また、構造物など、複数の工種で構成される部分の施工の途中段階においては、コンクリート、型枠、鉄筋など出来高確認が容易なもののみを出来高とするなどの工夫が考えられる。</p> <p>さらに、工事全体についても、施工の途中段階においては、出来高が大きい部分や</p> |

出来高確認が容易な部分のみを出来高として確認するなどにより省力化を図ることが考えられる。

ICT 活用工事における出来高算出方法うち、ICT を活用して簡易土量を把握している場合は、そのデータを活用して得られた算出数量に9割を乗じた数量を、施工履歴を用いた出来高数量とすることができる。対象となる ICT は、以下のとおりとする。

- 1) 「施工履歴データによる土工の出来高算出要領」に従い出来高を算出した場合
- 2) 「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領」に従い、概略数量を算出した場合
- 3) 「レーザスキャナを用いた出来形管理要領」に従い、概略数量を算出した場合

以下（略）

出来高確認が容易な部分のみを出来高として確認するなどにより省力化を図ることが考えられる。

以下（略）